



ドクター内田のひとりごと

思いつくまま気のみくま 43



3密を避けつつ、心は親密に

11月に入りました。今年の秋は、なんだかいつもと違いました。敬老会をはじめとする町内外の各種行事もコロナの影響でほとんど開催されませんでした。

学会も各種会議もいまやwebで実施されることがほとんどです。人との物理的な距離だけではなく、精神的な距離も離れている気がします。歌手のさだまさしさんが「好きだから会いたいの、好きだから会わない」と言っていたのが心にしみます。

ということで、今回は距離の話。皆さんは、「パーソナルスペース」という言葉を聞いたことがありますか？例えばあまり親しくない人に近づかれると、不快に思ったりしますよね。電車やバスでもできるだけ隣りに人がいないシートを探したりします。一方で親しい人とは近づきすぎてもそれほど不快には感じません。この心理的な範囲は人種・民族・性別・文化などにより異なります。

診察でもそうです。詳しく診察するときや耳の遠い方に説明するときはどうしても近づかないといけません。初めてお会いする患者さんには気を使います。たいていの医師はこの距離を気にしているのではないのでしょうか。「最近の医師は聴診器もあててくれない」という言葉を時々聞きますが、この「聴診器」の長さ、実はパーソナルスペースにはちょうどいい距離なのかもしれません。

先日、ある人から「ドライブスルー帰省」という言葉を聞きました。車から降りずに、顔だけ見せる帰省のようです。今までなら考えられないことですが、逆にわずかな時間でも元気な顔を見せるためだけに帰省する。きっとそこには短くても濃厚なひと時があることを想像します。コロナ禍でなにかと日常生活に制限がつきまわっています。しかし、そんなさなかでも、置かれた状況

をさりげなく、でもしたたかに克服することに、ちょっとした感動すら覚えます。

「心の窓」はいつでも できるだけ数をたくさんに、
そうしてできるだけ広く 開けておきたいものだ

(寺田虎彦:物理学者・随筆家)

この世で一番遠い場所は自分自身の心である

(寺山修司:劇作家・詩人)

病院でも、オンライン面会が始まりました。入院中の患者さんに直接会えなくても、1階の面会室と病棟をパソコン画面でつなぎ、顔を見ながら面会ができます。物理的な距離は離れていても、心の距離は保っていたいものですね。

院長 内田 望



検温システムによる体温測定について

新型コロナウイルス感染予防対策として、4月から正面玄関において来院者全員に職員による検温を実施してまいりました。今後も予防対策の必要が長引くにあたり、10月より患者さんと職員間の感染のリスク低減のため、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用し、検温システムを導入しました。

検温システム運用にあたっては、患者さん・ご家族のご理解・ご協力をお願いいたします。

検温システムは、正面玄関を入ったところに設置してあります。測定方法は、マスク着用のうえ、システムの画面前に数秒間立っていただくだけで、体温が測定できるものです。

検温システム



検温システムの画面



外来からのお知らせ

休診

11月2日(月) 耳鼻咽喉科外来 塩谷Dr.

11月12日(木) 耳鼻咽喉科外来 水足Dr.

外来医師の変更について

12月から眼科(水曜日担当)の医師が変更になります。
櫻井 裕Dr. → 高山 圭Dr.

最新の休診情報は、町立病院のホームページ「診療日カレンダー」でお知らせしています。
※休日急患当番医は広報おがの23ページをご覧ください。

発熱外来

発熱や咳など呼吸器症状等のある人は発熱外来で対応いたします。事前にお電話(☎75-2332)いただき受診方法をご確認ください。

お子さんをお持ちの人へ

小児については、小児科医による診察が望ましく、かかりつけ小児医療機関や埼玉県新型コロナウイルス感染症県民サポートセンター☎0570-783-770(24時間対応)に電話などでご相談ください。